

⑫戦後と女性文学

戦後の始まり

・ 日本国憲法

第二十四条

婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない。

配偶者の選択、財産権、相続、住居の選定、離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては、法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない。



1945年12月 衆議院議員選挙法改正
1946年4月10日
1,380万人の女性が初めて投票
39名の女性国会議員が誕生



1945-1960

- 宮本百合子 『播州平野』 1947
- 林芙美子 『晩菊』 1949 『浮雲』
1951
- 壺井栄 『二十四の瞳』 1952

- 幸田文 『流れる』 1956
- 円地文子 『女坂』 1957
- 有吉佐和子 『紀ノ川』 1959

1960-70

- 倉橋由美子 『パルタイ』 1960
- 河野多恵子 『幼児狩り』 1961
- 大庭みな子 『三匹の蟹』 1968
- 金井美恵子 『愛の生活』 1968

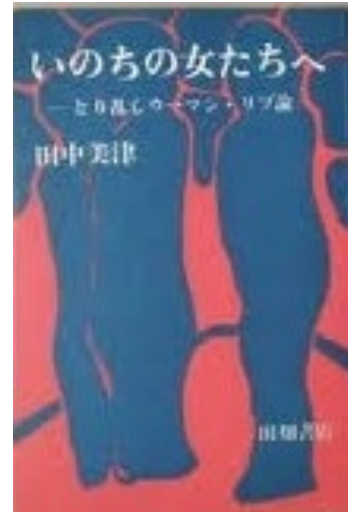
- 森崎和江 『まっくら：女坑夫からの聞き書き』 1961
- 石牟礼道子 『苦海浄土：わが水俣病』 1969
- 森崎和江 『からゆきさん』 1976
- 山崎朋子 『サンダカン八番娼館：底辺女性史序章』 1972
- 有吉佐和子 『複合汚染』 1975

第二波フェミニズム：ウーマン・リブ

- 田中美津

とり乱しウーマン・リブ論

- 優生保護法改悪阻止



1972

2005

田中美津, 田畑書店
「いのちの女たちへ - とり乱しウーマン・リブ論」

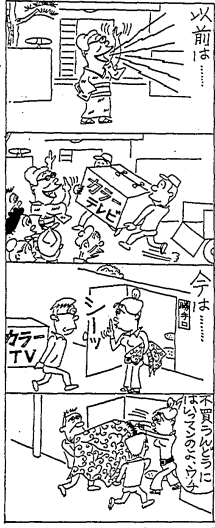


ウーマン・リブ運動の写真

著作権の都合により
削除しました



サザエさん



前編(1) 11月1日



「美しさを大切にする」の旗を掲げた学生たち。背景には「美しさを大切にする」という文字が繰り返されている。

「おんな解放」 やりますわよ



思いもよらぬ激しいウーマン・パワーに、機動隊員もはびくり(東京・銀座で)

ウーマン・リブ銀座に 男は締め、機動隊もタジタジ

反戦デー

「ウーマン・リブ」の活動が、銀座の街を騒がせている。参加者は、男を締め、機動隊もタジタジと騒いでいる。

学生、乗用車に放火

11日午後、東京の銀座で、学生が乗用車に放火した。原因は不明だが、学生運動の激化が背景にあると見られる。

中央集金会 なごやか

中央集金会が、なごやかと題して、社会貢献活動を行っている。活動内容は、貧困救済や教育支援などである。

自由化

70年代の巨人

田中 美津子

自由化の波が、70年代の社会を揺るがしている。若者の意識の変化や、社会制度の改革が求められている。

待つ女から脱皮



「美人レベルでは、高く抱かれるから、高く抱く」にしないなら、一羽の鳥

「待つ女」から脱皮しようとする女性たち。従来の女性像を打破し、自立と自己表現を求めようとしている。

自由化の潮流の中で、女性たちは新たな生き方を模索している。社会の期待に応えず、自分らしく生きることを目指している。

1970年前後の「子殺し」

45 RPM STEREO
DENON
CD-133
¥400

刑法第212条
PARAGRAPHS 212. THE CRIMINAL LAW

瑞紗マリエ
みすさ

良心をかけて世に問うた問題のレコード
●もう聴きましたか？
●どう感じましたか？
●考えてみましたか？

今、ラジオ・雑誌・新聞で
HOT/な話題を
呼んでいます!!

第二十九条 堕胎ノ罪
第二二二条 (堕胎) 懐胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他
方法ヲ以テ堕胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ処ス
○一(公訴時効) 刑訴二五〇(国一三年)

第二三条 (同意堕胎) 得テ堕胎セシメタル
婦女ハ死傷ニ致シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲
役ニ処ス
○一(同意) 其承諾
受ケルニ因
ルニ
第一

◆鳩よ
ARE YOU PIGEON ?

作詞：小倉雅美、作曲・歌：瑞紗マリエ、日本コロムビア、1971「ママ！
ママ！ / ボクは生まれそこねた子供です / 見えない瞳のままで / 聞こえない耳の
ままで / 暗い世界へ落された / 人になれない子供です」

(17) 10版 昭和45年(1970年)7月10日 金曜日

ゆるる優生保護法

「ゆるる優生保護法」は、胎児の権利を保護し、母の健康と安全を確保することを目的として制定された。この法律は、胎児の生命と健康を保護し、母の健康と安全を確保することを目的として制定された。

ひまさまの証言

「ゆるる優生保護法」は、胎児の権利を保護し、母の健康と安全を確保することを目的として制定された。この法律は、胎児の生命と健康を保護し、母の健康と安全を確保することを目的として制定された。

元気なら、あの年ごろ

切実な「住宅難なので」

ゆるる優生保護法 朝日新聞 1970.7.8-10,13-16
写真：剣持加津夫 (『九九-〇〇 消えゆく胎児との文話』1966)

また非情な若い親

今年子殺し百数十件

放り投げ死なす と酔った父



父 三川 昭雄

不満のはけ口に 子沢山恥じ殺した例も

重傷 4人

【東京10月10日】「今年の子殺しは百数十件に達する」と、警察関係者が警告している。そのうち、親の非情な行為によるものが目立つ。特に、親の不満のはけ口として、子どもを殺害する例が増えている。また、酔った父親が子どもを放り投げた事例も報告されている。

警察関係者は、この傾向を「家庭内暴力の激化」と見做している。親の精神的苦痛や、経済的な困窮が、このような悲劇の引き金となっている。特に、子育ての負担が重くのしかかっている若い親世代に、このような事例が増えていると指摘している。

朝日新聞、1969.10.

母性喪失 子殺しの風土



不幸続きの末の凶行 相談できる仲間もなく

母性喪失とは、母親が子どもに対して愛情を失い、子どもを殺害する傾向を指す。これは、現代社会特有の問題として注目されている。多くの場合、母親は子育ての負担を一人で背負っており、精神的に追い詰められる。相談できる仲間がいないという孤立感も、この凶行を誘発する要因の一つとされている。

母性喪失の背景には、社会的な要因が潜んでいる。現代社会は競争が激しく、親は子どもに高い期待をかける。一方、子どもは親の愛情を求めながら、同時に親のプレッシャーに苦しんでいる。このような状況が、親子関係の崩壊を招き、最悪の事態に至る可能性がある。

家庭

親子関係の悩み、子育ての不安、子どもの行動問題など、お気軽にご相談ください。

政治に説く目 有権者への啓蒙

選挙の重要性を伝えるための活動が各地で行われている。有権者は自身の権利を行使し、社会の発展に貢献する責任がある。特に、若年層への啓蒙活動が盛んに行われている。

地位向上など決議 市川さんの選挙に拍手



市川さんの選挙活動は、市民から大きな支持を得ている。市民は市川さんの政策や決意に賛同し、選挙に拍手を送っている。市川さんは、市民の地位向上や生活の安定を約束し、選挙で勝利を収めた。

子殺し

リブの三つのスローガン

(1)女は、侵略へ向けて子供を生まない！ 育てない！ 1970~

《子供 = 侵略のための兵士 / 子殺し : 加害者として》

(2)産むも産まぬも女が決めるゾ！ 1972~

《子供 = 弱者としての可視化 : 子・老人・病人・障害者》

弱肉強食のこの世は、生産性の論理をもって成立している。車優先の歩道橋——老人、子供、病人、「障害者」無視のそれを思い浮かべればよい。 / 企業にとって役に立つか立たないかをもって、ヒトの生命の尊厳を卑しめていくその論理は、あたしの生活を、意識を日常的に蝕んでいく。

(「敢えて提起する = 中絶は既得の権利か？」(文責田中美津) 1972.10、『ヒラ篇』414-416頁。)

とにもかかわらず面倒くさいもの、手のかかるもの、弱い者を切り捨てていく生産性の論理が、この世をまんべんなく覆っている時、胎児をジャマ者として処理する墮胎は、この世の腐臭に女を巻き込んで、女の感性を荒廃させる以外のものではない。

(第三章「生むも産まぬも女が決める！」(田中美津、モモイヨシコ、『リブ論第一集ノアの箱船』1972.11、『パンフレット篇』20-24頁。)

(3)産める社会を！ 産みたい社会を！ 1973

- * 障害者運動との接触
- * 依存の思想との接続

「母性愛」信仰への批判

帝国主義・国家戦略に組み込まれた「子産み機械」
生産性・機能主義批判

障害者運動との連帯

「子産み機械」→胎児チェックの道具「ゴミ処理機」
子ども：「矛盾物」「ジャマ者」→「弱い者」
まなざされる時間の広がり
「育てること」=関わりへ

子殺しと女性文学

中山和子「女流文学とその意識変革の主題」『
国文学』1986.5

- 男性パラダイムの破壊として考えられる、早いタイプに、母性神話の打ち壊しがある。
-大庭みな子 高橋たか子 三枝和子
- 月満ちれば無意味な存在を産み出してしまおう、母性への恐怖と憎悪。それは昂じて子どもへの殺意となる。
- 一方これらとは反対に、産む性を肯定しながら、従来にない新しい母性を描いているのが津島佑子である。

与那覇恵子「女の意識 / 女の身体」『後期20世紀女性文学論』晶文社、2014

- 「産む性」への憎悪と拒否
- 拒否：高橋たか子「渺茫」『文学界』1970.11、「彼方の水音」『群像』1971.4、「相似形」1971.5
- 憎悪：大庭みな子「ふなくい虫」『群像』1969.10、「母の夢」1971、富岡多恵子「植物祭」『海』1973
- 女性憎悪という発想は、主体としての自己を認識しようとする女の意識の表現であった。それら六〇年代後半から七〇年代にかけての女性作家の作品は男性が男中心で書いてきた「近代的自我」の歴史を、女性が女中心に辿り直したということもできよう。
- 七〇年代後半になると....新たな「身体性の回復」が試みられた。産む性を肯定しながら、新しい女の在りようを表現しているのが津島佑子である。

1970年代

- 富岡多恵子 『植物祭』 1973
- 津島佑子 『葎の母』 1975
- 高橋たか子 『誘惑者』 1976
- 中沢けい 『海を感じる時』
1978
- 松浦理英子 『葬儀の日』 1979

1980年代～

1986 労働者派遣
法施行:13業務

- 1985 (1986施行) 男女雇用機会均等法
 - 採用、配置、昇進：女性を男性と同等に取り扱うよう「努力する義務」
- 1997(1999施行) 男女雇用機会均等法改正
 - 事業主に対するセクシャルハラスメント防止義務
- 2001 男女共同参画局
- 2001 DV防止法
- 2006 (2008施行) 男女雇用機会均等法再改正
 - 「セクハラ防止に配慮する義務」が「セクハラ防止措置をとる義務」に
 - 男女双方への性差別の禁止

1996: 26業務に

1999: 原則自由化

男社会だった文学界 「男性の専売特許」に女性やすやす

(朝日新聞2019.7.9)

第161回芥川賞・直木賞の選考会が17日に開かれる。今回の直木賞は候補6人がすべて女性となった。候補者全員が女性となったのは、芥川賞を含めて初めてだ。日本社会と同様、長く男社会だった文学界を変えたのは何だったのか。

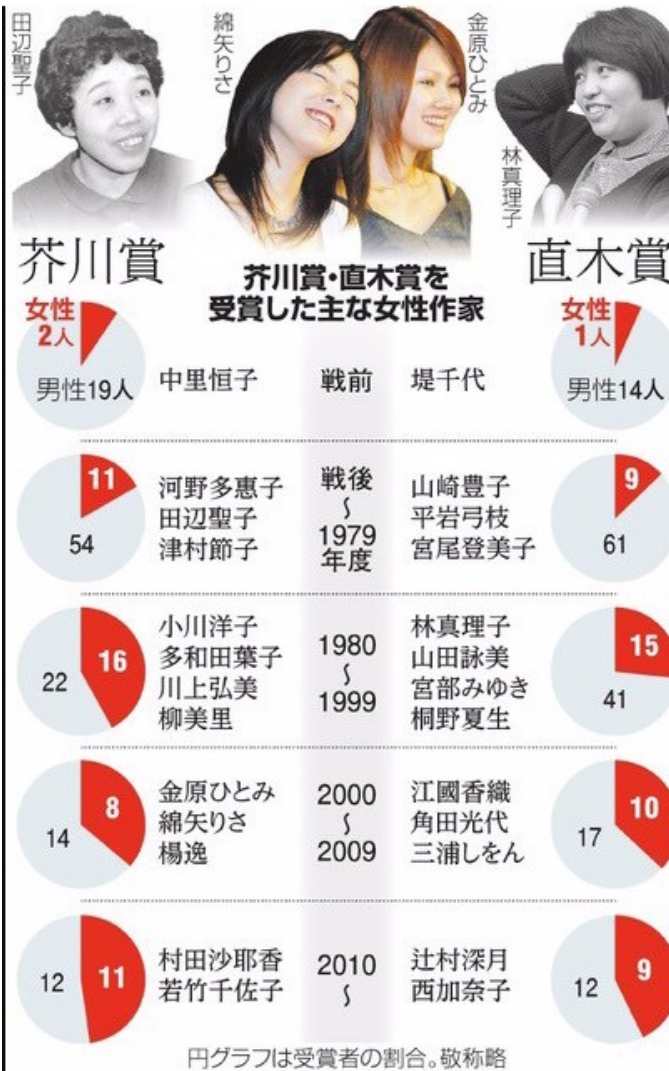
…候補作を選ぶ「下読み」担当の編集者は「残ったのがたまたま女性ばかりだった」という。直木賞受賞者で、現在選考委員を務める桐野夏生さんは「偶然だと思う。それだけ女性作家に実力があるということ。候補が全員女性ということ

で驚かないでほしいし、驚く世の中であってほしくはない」と受け止める。

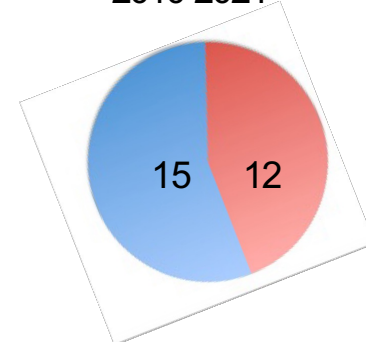
…両賞とも歴代受賞者を振り返れば圧倒的に男性が多い。芥川賞が男性121人に対し女性48人、直木賞が男性145人に女性44人。

…流れが大きく変わり始めたのは1980年代だ。林真理子や山田詠美ら、時代を先行く女性像を自在に描く作家たちの受賞が話題を呼んだ。1935年の両賞創設以来、男性が独占していた選考委員にも87年、芥川賞に河野多恵子と大庭みな子、直木賞に田辺聖子と平岩弓枝が加わった。

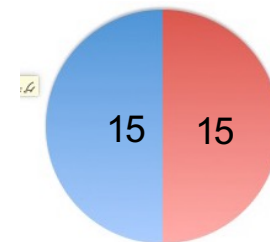
…2004年には、当時19歳の綿矢りさと20歳の金原ひとみと同時に芥川賞を受賞し、社会現象となった。受賞者に占める女性の割合は近年さらに上昇。06～08年の直木賞は、受賞作なしを一度挟んで、三浦しをんや桜庭一樹ら4回連続で5人の女性が受賞した。



直木賞
2010-2021



芥川賞
2010-2021



文芸賞のジェンダーバランス：

評論分野はほぼ100%が男性

五大文芸誌・文芸賞

	男性審査員	女性審査員	その他	男性受賞者	女性受賞者	その他
新潮新人賞	60%	40%	0%	64%	36%	0%
文学界新人賞	58%	42%	0%	79%	21%	0%
すばる文学賞	58%	42%	0%	39%	54%	7%
文藝賞	60%	40%	0%	70%	30%	0%
群像新人文学賞	60%	40%	0%	60%	40%	0%
五大文芸誌・文芸賞の合計	59%	41%	0%	62%	36%	1%

五大文芸誌・評論賞

	男性審査員	女性審査員	その他	男性受賞者	女性受賞者	その他
小林秀雄賞	100%	0%	0%	100%	0%	0%
すばるクリティーク賞	100%	0%	0%	100%	0%	0%
群像新人評論賞※	92%	8%	0%	100%	0%	0%
五大文芸誌・評論賞の平均	97%	3%	0%	100%	0%	0%

※2014年までは群像新人文学賞評論部門。2015年から群像新人評論賞として独立。

文芸賞「三冠」

	男性審査員	女性審査員	その他	男性受賞者	女性受賞者	その他
芥川賞	67%	33%	0%	56%	44%	0%
野間文芸新人賞	66%	34%	0%	80%	20%	0%
三島由紀夫賞	60%	40%	0%	40%	60%	0%
文芸賞「三冠」の平均	64%	36%	0%	59%	41%	0%

- 娘による「母」の物語
- 「母」の苦しさ
- 家族の希薄化
- 格差の物語
- お仕事物語
- 非異性愛的物語
- 再生産小説

2020.5.24

子どもがいない、という生き方

妊娠出産の自己決定権 遅れる日本



2019.9.23

女性の意思で使える避妊法少なく

「相手が避妊してくれない」「未成妊だから」と、緊急避妊薬をもらえなかった。避妊や性の情報を発信するウェブサイトに「#なんでない」の1 (https://www.mn.densho.com) には、#なんでないの声を聞く、#なんでないのプロジェクトは、避妊法の選択肢を増やすなど、主に若者の性に関する情報を提供するための活動が目指している。

「世界には安全で安価な避妊法があるのに、それを知らず、あるいは知らず知らずのうちに、代償の福田和子さんの2は話す。『避妊法がない』というのでは、選択の余地がないを自分で決められないということ。リプロダクティブ・ヘルス/ウェルネスを

リプロダクティブ・ライツ 強制不妊訴訟で焦点に

2025年までの少子化対策の指針となる政府の「少子化対策大綱」が9日、閣議決定された。少子化対策大綱に「リプロダクティブ・ライツ」が盛り込まれた。これは、憲法で保障される個人の基本的権利と、旧優生保護法による強制不妊手術をめぐる裁判で5月、仙台地裁が勝訴した。また、「日本では」の権利が十分に理解されていない」と専門家らは指摘します。

「希望出生率1.8」明記 少子化対策大綱 経済支援目立つ

成をめさず数値目標がすりわりと並ぶ。だが、前回の大綱では17年度末までの待機児童解消など、主要目標の多くが達成できていない。

その一つが男性の育児休業取得率だ。前回掲げた目標は「20年に13%」だが、足元の取得率は6.16%

2020.5.30

2019.5.30

桜田前五輪相「子どもも3人くらい産んで」

与野党非難、自民内に擁護も

注目の論点

担当記者が選ぶ、出産や性、個人のライフスタイルにかかわる論者が目を引いた。武藤博己「戸籍と人権——その現代的課題と対応」（都市問題5月号）は、戸籍制度が様々な差別や格差を生み出している現状を考察。現在の戸籍制度は、夫婦別姓や同性婚などの問題に対応できておらず、個人の権利が十分に守られていないと指摘する。また、一連の特集では、これまで注目されなかった「ひとり戸籍の幼児」の存在をとり上げ、制度が抱える課題に迫る。

生殖医療技術の進歩は、個人に新しい問いを突きつけている。柘植あづみ「さやかな欲望を支える選択と責任」（思想5月号）は、卵子提供で子どもをもった9人の米国人女性に、その選択のプロセスを丁寧に聞き取っている。登場する女性たち

出産や性、ライフスタイルを考える

は、パートナーと社会、倫理的な課題を話し合い、ためらいながらも自らの選択を受け入れていく。心の揺らぎに加え、選択の背景にある社会的・文化的な要因にも触れる。

女性誌「VERY」6月号の「トランスジェンダーの我が子が幸せになるためにできること」は、トランスジェンダーの子がいる親の問いに、トランスジェンダーの当事者が答える企画。幼い頃に感じた性への違和感、体形が変わる思春期の悩みなど、直面した葛藤を率直に語る。

18〜39歳の日本人の25%に異性間の性交渉経験がなく、米国や英国に比べてその割合はかなり高い……。そんな論文が公表され、波紋を呼ぶ。

「30代の150万人が性差を認めない」と「30代の150万人が性差を認めない」と（文芸春秋6月号）は、文芸春秋の責任著者・上田ヒーターに、日本人の性生活のあり方や社会への影響を尋ねている。男性の場合、性交渉経験が収入や雇用形態と強い相関性がある、とする考察も紹介している。

2019.5.30

不妊治療第三者から卵子 「出産女性が母」法案提出へ

夫婦以外の第三者の卵子や精子による不妊治療で生まれた子どもの親子関係を法的に明確にするため、自

性的少数者へ差別発言 止まらぬ自民議員

自民党の東京都足立区議が区議会で、同性愛について「法律で守られる」と足立区が激ん「まっ」という趣旨の発言をした。自民党

2015年6月
宝塚に同性愛者が集まってHIV(エイズウイルス)感染の中心になったらどうするのか
兵庫県宝塚市の大河内茂市議が市議会で

性的少数者に対する自民党議員の差別発言



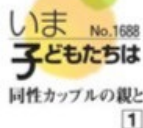
18年7月
(同性カップルは)彼ら彼女らは子供を作らない、つまり「生産性」がない
杉田水脈衆院議員が月刊誌「新潮45」に寄稿

19年1月
この人たちがばっかりになったら国はつぶれてしまう
平沢勝栄衆院議員が集会で

保守的な家族観」背景 ■ 変化の兆しも

「L(レスビアン)やG(ゲイ)が足立区に完全に広まったら、子どもは一人も生まれない」「LだってGだって法律で守られているじゃないか、なんていう話になったのでは足立区は滅んでしまう」

「10年前で多くの人があった。いま子どもたちは同性カップルの親と



母ふたり家族になって10年

くのは苦手だが、「せつかくの記念日だ。札幌の時計を壊した。大連(錦)を歩いて、小樽で...

2020/7/19

2020/10/17

「男性産休」新設へ 本格議論スタート

もが生まれた直後の時期に、新制度の検討が29日、厚生労働省が3月、子どもの出生直後4週間に限った「男性産休」制度の新設を提案。政府が7月にまとめた「骨太の方針」にも、検討が盛り込まれた。

厚労省 年内に制度案

母親が担う」との性別役割分業の意識が社会に根強いことなどがある。そのため自民党のプロジェクトチームが3月、子どもの出生直後4週間に限った「男性産休」制度の新設を提案。政府が7月にまとめた「骨太の方針」にも、検討が盛り込まれた。

から最低7日間の取得を義務づける考えを表明した。厚労省は29日に開かれた労働政策審議会で、今後の論点として、対象期間や取得日数▽手続きの簡素化▽企業に周知を義務化するか——などを示した。休業中の給付金の水準も検討課題になりそうだ。

2020/9/30

精子のネット取引潜む危険

「学歴や国籍違った」規制望む声

インターネットで知り合った男性から精子提供を受ける女性が増えている。30代女性から、専業主婦や主婦まで、幅広い年代層から、精子提供を受ける女性が増えている。ネット上で「精子提供」を募集するサイトは、医師の監修を介した精子提供にはないが、その見守りも困難だ。

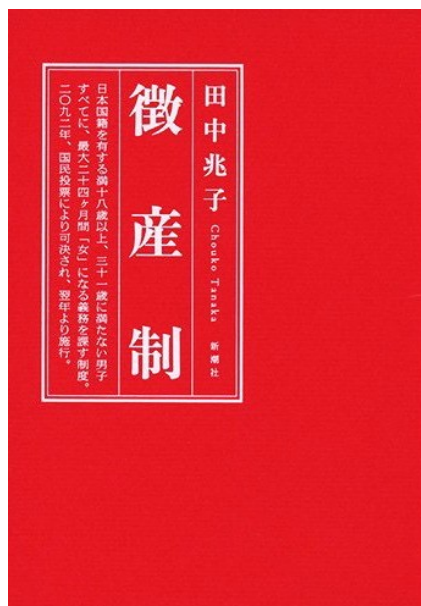


第三者から提供環境整わず

2020/10/7

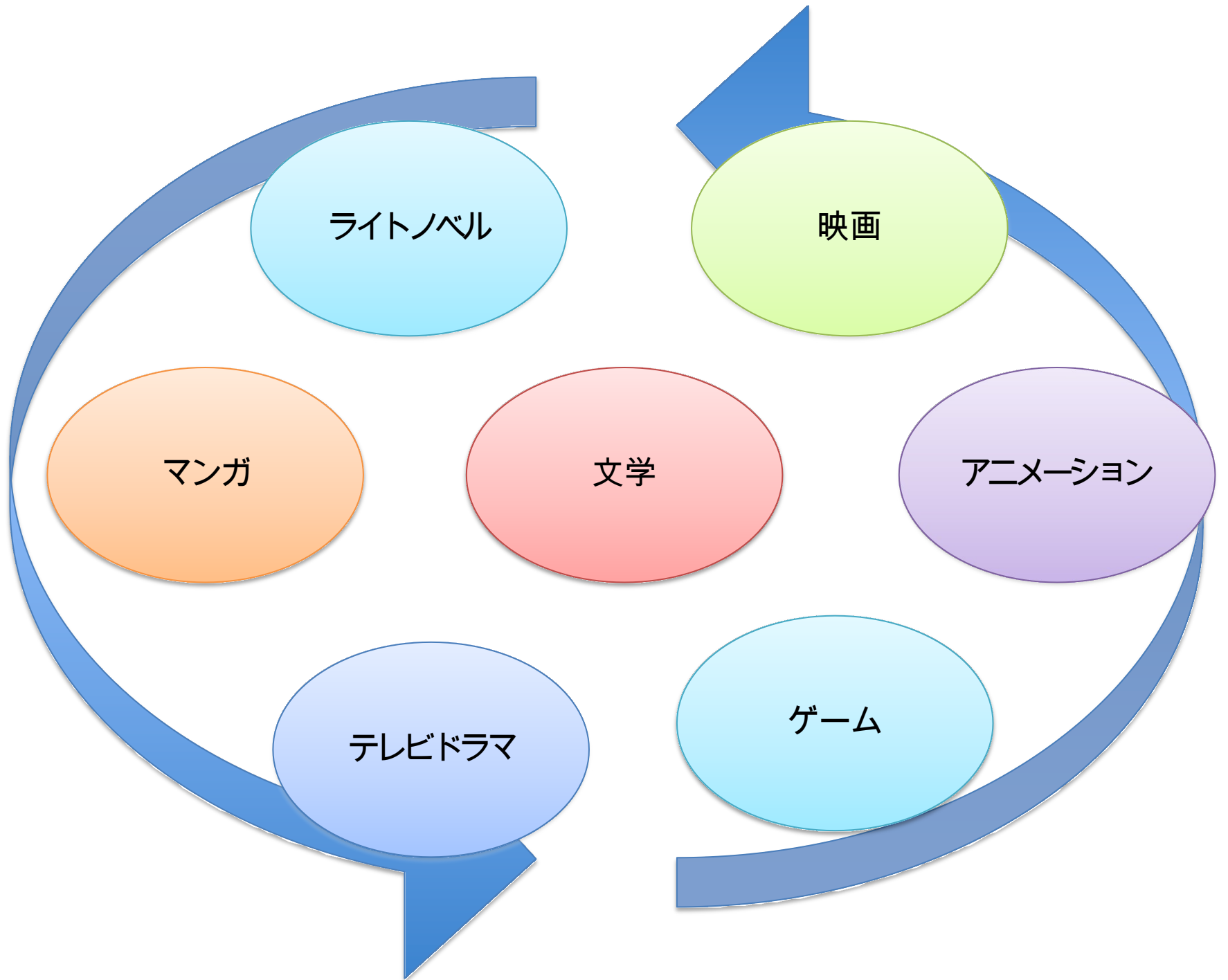
再生産小説

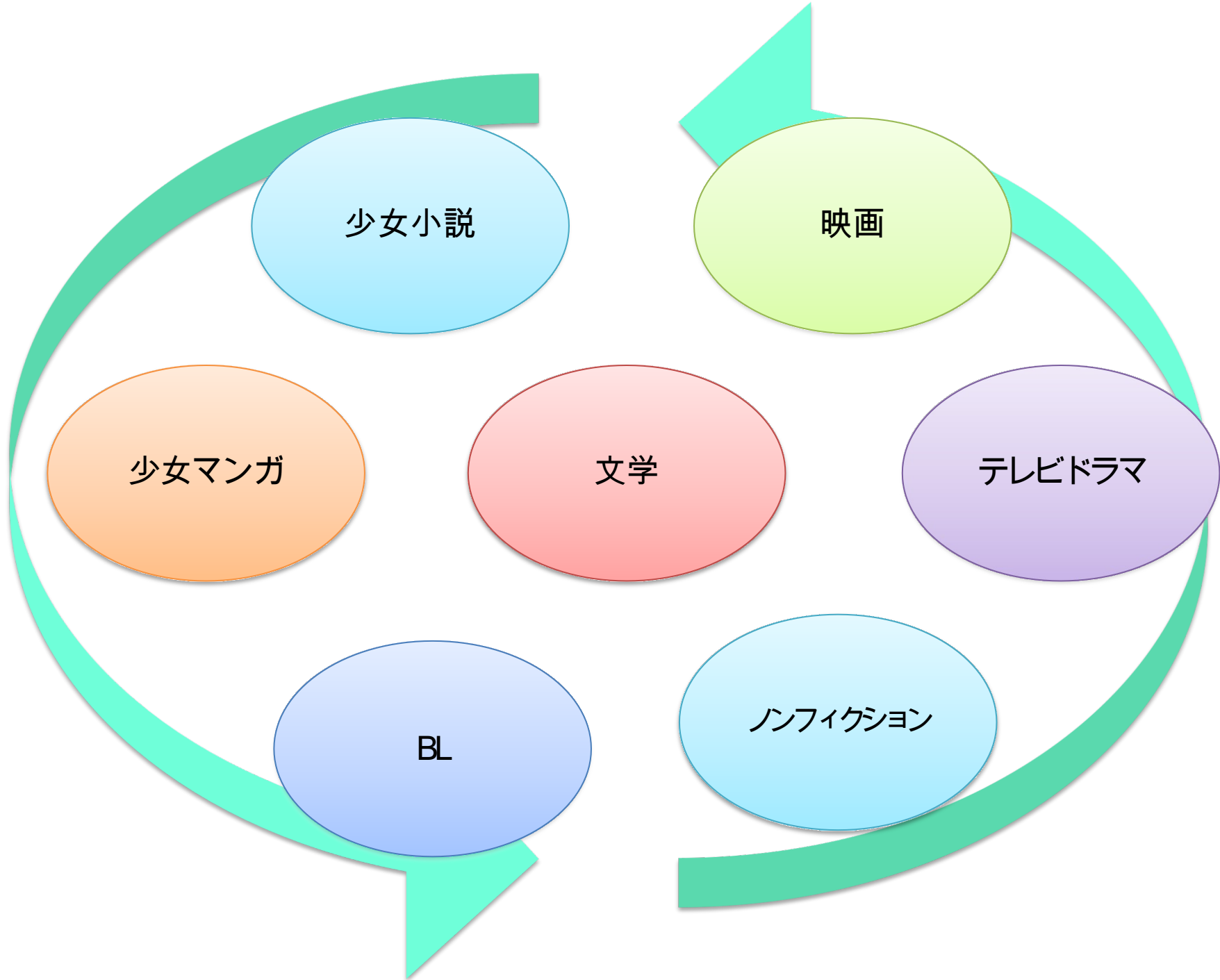
- ◎ 村田沙耶香『殺人出産』 (初出『群像』2014.5、講談社、2014)
- ◎ 窪美澄『アカガミ』 (初出『文藝』2015.10、河出書房新社、2016)
- ◎ 古谷田奈月『リリース』 (光文社、2016)
- ◎ 田中兆子『徴産制』 (新潮社、2018)
- ◎ 小野美由紀『ピュア』 (初出『SFマガジン』2019.6、『ピュア』早川書房、2020)

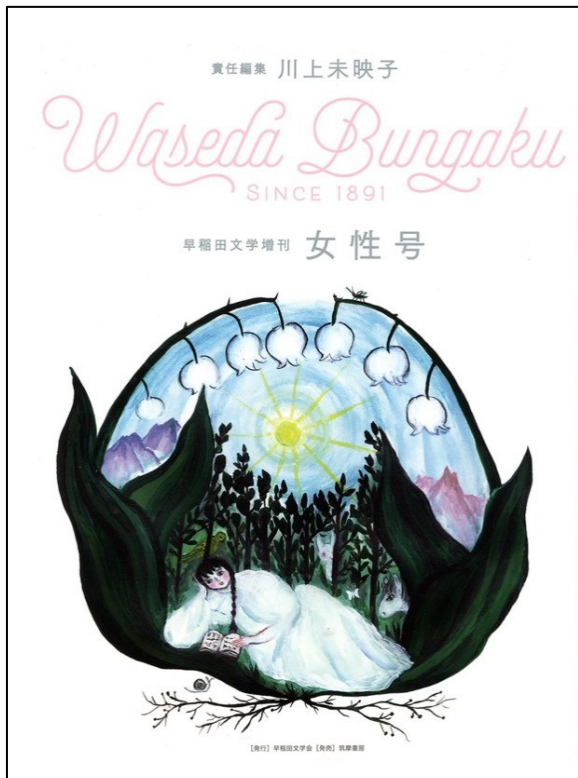


- 村田沙耶香『殺人出産』出産は全面的に人工授精による社会。「偶発的な出産」が減少し、人口対策として「命を生み出すシステム」として「殺人出産制度」が作られる。産み人となって十人産めば一人殺せる。
- 窪美澄『アカガミ』二〇三〇年。少子化対策が成功しないばかりか若年の自殺者が増加し、「アカガミ」という名の出産を目的とした国営の見合いサービスが導入される。
- 古谷田奈月『リリース』男女同権思想と同性愛者優遇が実現された社会。そのために出生率が低下し、全国民を精子ドナーと代理母にするという制度が導入される。
- 田中兆子『徴産制』二〇九二年。新型インフルエンザにより一〇代から二〇代女性の85%が喪われた日本で、人口問題を解決するため、満一八歳から満三〇歳までのすべての日本人男子に性転換を義務付け出産を奨励する「徴産制」が布かれる。
- 小野美由紀『ピュア』大気汚染と疫病の蔓延と戦争で人口が二〇〇〇年頃の四分の一に減少。遺伝子改良によって女性は「鱗に覆われた体、岩をも噛み砕く強い牙、一撃で敵を打ち殺す長い爪」を持つようになり、安全な人工衛星で国家の「テキ」と戦いつつ妊娠出産に従事。

妊娠・ 出産 = 人口の管理

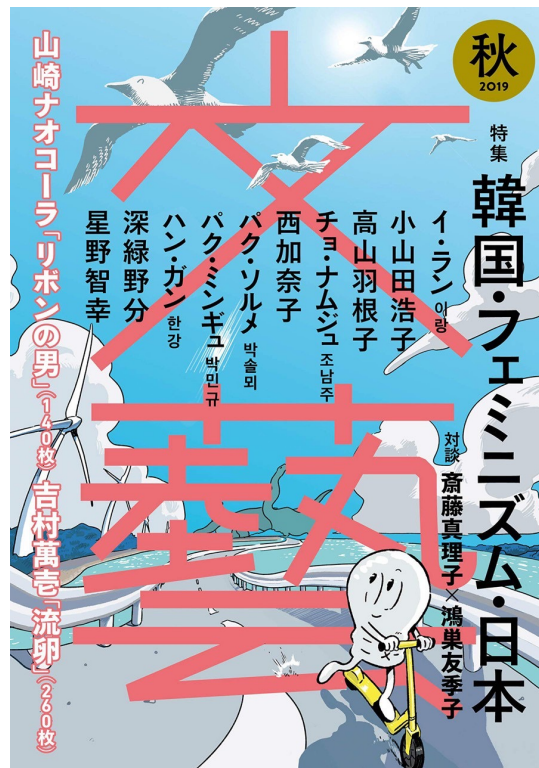






早稲田文学2017.9

筑摩書房（発行：早稲田文学会）



文藝 2019.8

河出書房新社



2019.11

「完全版 韓国・フェミニズム・日本」斎藤真理子責任編集，河出書房新社



文藝2022.1

河出書房新社

まとめ

- 戦後民主主義と女性の地位の変化
- 70年代：ウーマン・リブ
- 80年代以降：フェミニズム

- 現代女性作家の実践
- 継承されているテーマ
- 新たな展開